

鹿児島の動物39

レッドリストの両生類

動物担当 池 俊人

今回は、鹿児島県レッドリストに選定されている両生類を紹介しします。絶滅危惧Ⅰ類（絶滅の危機に瀕している種）には次の2種が選定されており、ともに県の天然記念物にも指定されています。

イボイモリは県内では奄美大島と徳之島の森林に生息し、肋骨が張り出した独特の姿をしています。両生類なのに陸上で産卵する繁殖生態も珍しいものです。



イボイモリ

アマミイシカワガエルは奄美大島の溪流付近に生息する固有種で、緑色の網目模様が美しく「日本で最も美しいカエル」と



アマミイシカワガエル

いわれます。現在、県立博物館で飼育展示しているので、実物を見てほしいと思います。

絶滅危惧Ⅱ類（絶滅の危険が増大している種）には、次の6種が選定されています。

カスミサンショウウオは出水平野周辺に分布



カスミサンショウウオ

する止水性の種で、本種の分布南限にあたります。平成26年には、県の天然記念物にも指定されました。

コガタブチサンショウウオは、北薩や大隅半島高隈山系の溪流に生息する種で、本種の分布南限にあたります。伏流水中で産卵するために卵や幼生を見ることは非常に困難で、私達も何度か現地調査をしましたが、残念ながら幼生の姿を見ることはできませんでした。



オオスミサンショウウオは、大隅半島肝属山地の溪流だけに生息

オオスミサンショウウオ幼生

しします。これまで紀伊半島などに生息するオオダイガハラサンショウウオと同種だと考えられていましたが、平成26年に独立種であることが判りました。脊椎動物の県本土固有種は、非常に貴重な存在だといえます。

ベッコウサンショウウオは県内では北薩地方の河川



源流域ベッコウサンショウウオ(渡邊剛氏撮影)に生息し、本種の分布南限にあたります。成体は美しいベッコウ模様をしており「日本で最も美しいサンショウウオ」といわれます。

アマミハナサキガエルは奄美大島と徳之島の森林に生息し、他のカエルよりも強いジャンプ力があります。



アマミハナサキガエル

オットンガエルは奄美大島の森林に生息する、ずんぐりした体形の大型のカエルです。アマミハナサキガエルとオットンガエルはアマミイシカワ



オットンガエル

ガエルとともに、県の天然記念物に指定されています。以上のように、県レッドリストで絶滅危惧Ⅰ・Ⅱ類に選定されている両生類8種の中には、分布南限が3種、県本土や琉球列島の固有種が5種含まれています。また、県の天然記念物にも5種が指定されています。このように、限られた地域にしかいない貴重な動物が多いことが、鹿児島県の生物相の大きな特徴なのです。

国内で最も豊かな生物多様性をもつ鹿児島県のレッドリストの生物が、将来絶滅することがないようにしたいものです。